

平成31年度事業計画書

(2019年4月1日～2020年3月31日)

I. 事業計画概要

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金として再出発して7年が過ぎましたが、この間、当法人ならではの事業を行って参りました。一方、本年は、当法人が1979年に設立されてから丁度40年の記念の年に当たります。この記念の年に、当法人の設立の原点に今一度立ち返り、その設立の目的である「美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する」ことを再確認し、その目的を達成するための事業を積極的に行って参ります。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

a. 展示計画

本年度は、下記の展覧会を開催します。

「涼風のわく 一館蔵染付展一」

私たちの食卓を彩る、純白の素地に藍色の顔料で絵付けされた染付磁器は、多種多様な文様を楽しむことができる器であるとともに、清潔感があり、また見る者に涼しさをもたらします。一方で、陶器に白化粧し、酸化コバルトによる絵付けを施した器も染付と呼ばれて、様々な料理に使用されています。

石洞美術館は、日本有数の古染付（中国の明時代末期に日本向けに作られた染付磁器）コレクションを所蔵しておりますが、古染付以外にも、日本から朝鮮、中国、ベトナム、中東、ヨーロッパに及ぶ、多種多様な染付を所蔵しております。

本展では、館蔵の染付作品からおよそ90件を選び、染付の歴史を概観するとともに、染付の多様さや楽しさに触れて頂き、また、暑い季節に、染付の器を通して涼しさを感じて頂きたいと思っております。

「石洞山人交遊録」 (仮称)

石洞美術館の所蔵品の多くは、当法人を設立した佐藤千壽初代理事長（雅号：石洞）が収集したものです。その収集は20歳の頃から始まり、およそ70年の永きに渡っていますが、その間、ただ一人黙々と作品を集めた訳ではありません。その作品の多くは人との関わりの中で収集されたものでした。作品を仲立ちとした佐藤の交遊関係は幅広く、研究者、作家（陶芸家、版画家、鋳金家など）、骨董商、校友、趣味の友、など枚挙にいとまがありません。また、そのようにして集められた作品からは、その作品に関わった人たちの思いが伝わってきます。そこにあるのは単なる「もの」ではなく、佐藤と様々な人たちとの交遊の証です。

本展では、佐藤の集めた作品を通して、佐藤の交遊の軌跡をご覧頂きたいと思います。

「輝けるメタルアート ー淡水翁賞35回記念ー」 (仮称)

当法人が1983年に創設した淡水翁賞（若手金工作家を奨励するための賞）は、2019年の授賞で35回を数えました。これを記念して、淡水翁賞受賞者の作品を集めた企画展を行います。

淡水翁賞は、金属を素材として制作している作家であればジャンルを問わず対象者としてきました。技法も受賞者によって異なりますし、作品も、工芸作品もあればオブジェもあり、またジュエリーもあります。

本展では、淡水翁賞受賞者およそ80人の多種多様な作品を通して、金工の現在を見て頂くとともに、金工の素晴らしさや魅力を多くの方に知って頂きたいと思います。

「涼風のわく ー館蔵染付展ー」	4月27日（土）～8月4日（日）
「石洞山人交遊録」 (仮称)	8月31日（土）～12月15日（日）
「輝けるメタルアート ー淡水翁賞35回記念ー」 (仮称)	1月11日（土）～4月5日（日）

b. 地域との連携活動

足立区内の他の4施設と協力して、石洞美術館の展示室でコンサートを開催し、美術館の新たな魅力を発信します。

c. 広報活動

昨年度に引き続き「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

d. 博物館実習

学芸員資格取得に必要な館園実習を行い、2名を限度に実習生を受け入れます。

e. 資料の収集

魅力ある展示を行っていくため、資料収集方針にしたがって、今年度も新たな資料の収集を行います。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

本年度は下記の研究に対し助成を行います。

a. ハーバード大学東アジア言語文化学科留学生への研究助成

b. 太田泉 フロランス 西欧中世におけるパネル型聖遺物容器研究
— 《リブレット》を中心に—

c. 松本 隆 イタリア・ルネサンスの陶芸技法研究
：ピッコルパッソ『陶芸三書』における釉薬レシピの再構成

(2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

若手金工作家奨励のための淡水翁賞は、本年度で36回目を迎えます。

第36回淡水翁賞の募集は9月頃開始、12月25日をもって締め切りとし、選考の上、3月に授賞式を行います。